

弘前大学農学生命科学部地域環境科学科農業土木プログラム
平成18年度外部委員会(教育目標評価委員会・教育システム改善委員会)合同会議 記録
(案)

日時：平成18年7月1日(土)15:00～17:00

場所：農学生命科学部445室

出席者：[外部委員] 山形, 笹森, 田中, 砂沢, 櫻田(隆), 桜田(清), 山田

[プログラム教官] 工藤, 佐々木, 泉, 角野, 加藤, 谷口, 高橋(照), 桧垣, 藤崎

進行：工藤

記録：藤崎

前回の記録の確認

資料の通り承認された。

議事

議事に先立ち、2年間認定された旨の説明と、外部委員各位のこれまでの協力への感謝の意の表明があり、合わせて、認定証の披露と新聞記事の紹介がなされた。これに関し、同時に認定となった理工学部知能機械工学科との連携について質問があり、認定以前に合同で講師を呼んで研修会を開催した等の連携はあるものの、具体的な審査への対応等については特段の連携がない旨返答があり、了解された。

続いて、最終審査結果の内容と【W】2項目と【C】11項目が中間審査の対象となる旨説明があった。そして中間審査の対象外であるCとAの取扱いについて質問があり、直接審査されないものの、審査事項以外の改善を中間審査時に示すことも可能であるし、いずれ5年後には審査されるので、引き続き着実に活動を進めていく必要がある旨返答があり、了解された。

(1) 教育目標評価委員会

学習・教育目標について、伝統および資源の反映とアンケート結果の反映を求められているので、学外に対しアンケートを計画していることが説明され、伝統や資源を反映することの意味、教育のねらいの明確化、アンケートの対象者や内容、他大学の事例について質問があった。

伝統や資源の反映について、弘前大学の特徴という意味であり、以前、学習・教育目標のDに「青森県」という字句を入れていたことに対し、2004年9月実施の卒業生上司へのアンケートにおいて青森県にこだわるべきでないとの意見が多かったので削除したのだが、このことが逆に資源を反映していないと見られた可能性もあること、シラバスには伝統や資源の反映が読み取れる部分があること、他大学の情報は互いに守秘義務があり収集困難であるが、地域の文化を教える旨明記している事例もあるらしいことの返答があった。

アンケートについては、量を求められているので、卒業生を中心に若年層も含め100件程度の有効回答を得ることを目標にし、内容では弘前大学らしさを含めて問う予定であるとの返答があった。

そして、外部アンケート等の結果を踏まえ、学習・教育目標の再検討を行うことが了承された。

(2) 教育システム改善委員会

1) 平成 19 年度より当プログラムへの編入生受入中止

専門科目についてはシラバスを照合し不足する学習内容について補習と再評価を行っているが、このことは編入学生に、通常の授業に加えて、多大な時間と労力を強いている。また、21 世紀科目については、一括認定が大学のシステムであり、専門科目並みの対応は、編入学生、教員にさらなる負担を強いることとなる。他方、農業短大は 4 年生大学に移行しており、高専では JABEE プログラムを実施している学校も増えつつある。こうしたことから、最終審査結果で【W】とされた指摘事項への対応は困難であり、当プログラムへの編入生受入を断念せざるを得ないことが説明された。

これに対し、現在の編入生への対応、地域環境プログラムへの編入生受入の可否、中止も改善の見て良いのか、という質問があった。

平成 17 年度編入生は農業土木プログラムの希望が皆無であったものの、平成 18 年度編入生は編入試験時からプログラム希望を表明する受験者がいるなど 6 人全員が農業土木プログラムを希望している。従って、専門科目については、審査結果を踏まえ、よりきちんと再評価を実施していること、地域環境プログラムへの編入生受入は今後も継続する旨、返答があり、当プログラムへの編入生受入について平成 19 年度より中止することが了承された。

2) 外国人・帰国子女や高校への物理等未履修者への対応

外国人・帰国子女に対する対応については、大学としての対応等を調べた上で、必要に応じて当プログラムとしての対応を検討する予定であること、また、物理等について高校と大学での履修状況については在校生について調査を行う予定であることが説明され、了承された。

3) シラバスの改善

シラバス点検の担当者を決め漏れのないよう点検し、21 世紀科目については関係委員会に申し入れを行うことを含めて、引き続きシラバスの改善に努めることが説明された。指摘事項はどの科目なのかとの質問があったが、審査結果には具体的なことは記載されていないこと、大学としても F D 活動を熱心に行っており少しずつ浸透してきている旨説明があり、了承された。

4) プログラム外の教員とのネットワーク構築

農場実習などの専門科目を担当する学部内のプログラム外の教員と連携や、21 世紀科目関連委員会との連携について、平成 18 年度中にきちんと実績を残す予定が説明された。連携の頻度について質問があり、先方の都合もあるので当面年 1 回程度を予定している旨返答があり、了承された。

5) 学生支援システムの評価

学生へのアンケート実施する予定等が説明され、了承された。

6) 授業評価の状況

特に問題となる授業はなく、今年度は万木先生を教育褒賞し、公開授業をお願いすることが説明され、了承された。

7) 学生の学習達成状況

初のプログラム修了生 11 名が基準を達成したこと、認定証は現在事務手続き中で速やかに送付する予定であること、4 年生は 3 年末に 2 名がプログラム変更したものの残りの学生については順調に学習を進めていること等の学習達成状況について説明があった。就職状況と資料の数値の詳細について質問があり、プログラム修了生 11 名については農業土木関係は 2 名程度と少ないものの、4 年生については国家Ⅰ種の 2 次試験に 4 名合格し土木関係の就職内定者も多いこと、数値について補足説明があり、了承された。

8) 予算確保

学部長裁量経費、後援会等に引き続き予算要求の努力を続けている旨説明があり、了承された。

その他

次回日程は、年末くらいを予定している。